

巻頭 国民教育改革会議の審議を注目しよう(2)	中山 和彦	1
スタディノートの上手な使い方(前編)	余田 義彦	3
夏休みコンピュータ活用教育研修会の取り組みから～ワークショップ『塩尻グルメマップ』～		5
	松本市教育文化センター 太田 宏	
東日本(矢板)・西日本(天理)コンピュータ教育利用夏期研修会/目からウロコ!!な研修会アイデア		7
スタディノートメーリングリストから「少ない台数でのスタディノートの活用」/お知らせ		8

国民教育改革会議の審議を注目しよう(2)

- 徴兵制度より悪い強制奉仕制度を恐れる -

中山 和彦

オリンピック開会式を見て

20世紀の最後を飾るシドニー・オリンピックが開幕した。開会式のテレビ中継を見ていたが、選手入場は余りにも時間がかかるので、テレビをつけたまま新聞を読んでいた。ところが大拍手が流れてくる。何だろうと思って画面をみると、白地に青く朝鮮半島を染め抜いた統一旗を掲げた、男女2人の旗手が大写しになっている。カメラが移動して貴賓席を写すと、全員が立ち上がって拍手をしている。一般観客席を写すと、まさにスタンディングオベーション。入場式に参加した人が皆で、南北両朝鮮が一緒に入場してくるのを拍手で歓迎している。両国が統一され、平和な朝鮮ができるのを希望しているのだ。そのための第一歩としての合同入場を祝っているのだ。

開会式の最後に近く、上から大きな1枚の布が下がってきて、フィールドにいる全世界からの参加者を覆いつくした。その時、その布の上に「平和の鳩」が映し出された。そして何千羽のハトとなって飛び散っていった。私は、ここに、世界全人類の上に平和があるようにという全ての人の共通な祈願が示されているように感じた。また、平和の祭典としてのオリンピックが持たれることを喜んだ。

平和、それこそが世界の全ての人の願いであり、望みであることを示す、象徴的なシーンであった。

「半世紀以上続いた平和」は日本の誇り

国民教育改革会議の第1分科会の審議報告に、次のように記されている。

日本人へ
(物質的豊かさと平和の中で)

近年、日本の教育の荒廃は、見過ごせないものがある。子どもはひ弱で欲望を抑えきれず、子どもを育てるべき大人自身が、しっかりと地に足を着けて人生を見ることなく、功利的な価値観や単純な正義感、時には虚構の世界(ヴァーチャル・リアリティ)で人生を知っている、と勘違いするようになった。

その背景には、物質的豊かさと、半世紀以上も続いた平和があった。

これでは、日本における教育の荒廃や諸問題の原点に「半世紀以上も続いた平和」があると言わんばかりである。もし、日本が貧しく、平和な状態が続いておらず、どこかの国と戦争をしていれば、教育の荒廃もここに示された諸問題も起こらなかつたのかと反論したくなる。豊かで、半世紀も平和の中に生活することの出来たのを、我々は感謝すべきであり、日本として世界に誇るべきことではないか。

日本がPKOに軍事参加しなかったことを非難する声もあるが、それは憲法で禁止されているので、参加させたいと思う人がいても出来ないためであった。このような憲法があることを誇り、先人に感謝をしたい。

国民教育改革会議の中間答申

国民教育改革会議の中間報告が平成12年9月22日に発表された。この報告は「1. いまなぜ教育改革か」という前文で、「今後の教育システムを改革し改善するために、誰がなにをすべきかを具体的に示し

た改革案を提示する。」として、次に示すように4項目17提案から成り立っている。提案には提言が付けられているものもあり、提言数は計52で、各提案の後に()で示してある。

人間性豊かな日本人を育成する

- 教育の原点は家庭であることを自覚する(4)
 - 学校は道徳を教えることをためらわない(3)
 - 奉仕活動を全員が行うようにする(3)
 - 問題を起こす子どもへの教育をあいまいにしない(3)
 - 有害情報等から子どもを守る(2)
- 一人ひとりの才能を伸ばし、創造性に富む日本人を育成する
一律主義を改め、個性を伸ばす教育システムを導入する(4)

- 記憶力偏重を改め、大学入試を多様化する(3)
- プロフェッショナル・スクールの設置を進める(6)
- 大学にふさわしい学習を促すシステムを導入する(5)
- 職業観、勤労観を育む教育を推進する(3)

新しい時代に新しい学校づくりを

- 教師の意欲や努力が報われ評価される体制を作る(4)
- 地域の信頼に応える学校づくりを進める(4)
- 学校や教育委員会に組織マネジメントの
発想を取り入れる(3)
- 授業を子どもの立場に立った、わかりやすく効果的な
ものにする(4)
- 新しいタイプの学校(“コミュニティ・スクール”等)の
設置を促進する(3)

教育振興基本計画と教育基本法

- 教育施策の総合的推進のための教育振興基本計画を
- 教育基本法の見直しについて国民的議論を

奉仕活動を全員が行うようにする

中間答申には、その通りだと合点をし、早く具体化して欲しいと思う内容も少なくない。しかしその反面「一体何を考えているの」「そんなことを教育の場に持ち込まれたのでは大変だ」と思う箇所もある。その一つが次に示す奉仕活動に関する提案・提言である。

奉仕活動を全員が行うようにする

今までの教育は要求することに主力を置いたものであった。しかしこれからは、与えられ、与えることの双方が、個人と社会の中で温かい潮流を作ることが望まれる。個人の自立と発見は、自然に自分の周囲にいる他者への献身や奉仕を可能にし、更にはまだ会ったことのないもっと大勢の人の幸福を願う公的な視野にまで広がる方向性を持つ。

- 提言 -

- (1) 小・中学校では2週間、高等学校では1か月間、共同生活などによる奉仕活動を行う。
- (2) 将来的には、一定の試験期間において、満18歳の国民すべてに1年間程度、農作業や森林の整備、高齢者介護などの奉仕活動を義務付けることを検討する。
- (3) 奉仕活動の指導には、各業種の熟練者、青年海外協力隊の経験者、青少年活動指導者などの参加を求め、奉仕活動の具体的内容は、子どもの成長段階などに応じたものとする。

ここに記されている内容は第1分科会中間報告と同じであるが、奉仕の義務化については国民教育改革会議第1回会議で曾野綾子委員は次のように発言している。『日本人全国民が18歳で一年間の社会奉仕期間に従事してゆく制度を作るよう提案するつもりです。身体障害を持っている方でもしていただくことはたくさんあります。その1年間の社会奉仕期間に、受けるのみでなく与えられることのできる人間の責務を知ってもらいます。もっと具体的に申しますと、高齢者の介護の問題などもこれでほとんど解決すると私は思っております。』

この発言を中間答申と重ね合わせると、曾野氏が「高齢者の介護の問題なども」と言っている「なども」は、「農作業や森林の整備」を示しているようにみえる。農作業に人手が足りないかどうかは知らないが、3Kと呼ばれ人手の足りない分野に、18歳の全国民を強制的に狩り出せば、人手が足りないという問題はほとんど解決できるという意味にしかとれない。

また、リコー会長の浜田広委員は『大変乱暴な提案ですけれど、14、15歳で1年間合宿をして、農業をしながら勉強する。』と、『国民皆兵はいけませんので』『国民皆農と仮に呼ぶ』制度を提案し、18歳では遅いと第1回会議で発言をしている。

国民全員が、18歳で1年間共同生活をして、農業などに従事せよというのは、徴兵制度とほとんど変わる所がない。しかも、男女の区別なく、身障者をも含めてというのは、世界にも例がない。イスラエルは男女に徴兵義務を課しているが、期間は1年半で、良心的徴兵忌避者は認められている。それに比較しても、この提案で示されている内容は大変なものである。

物理や数学の分野では、若いころに能力が著しく発達するので、年齢制限をしないで若い優秀な学生を大学に入学させてトレーニングすることが大切である、と言われている。その大切な時期に、1年間学業をさせないで奉仕をさせるというのは全く納得がいかない。中間答申で、大学入学年齢制限をなくすといっているのとも全く矛盾する。

私には、中国の文化大革命時に農村下放を実施し、その後の国の科学技術の発展を阻害したのと同じようなことになるのではないかと心配である。

(次号へつづく)

(筑波大学名誉教授 / 21世紀教育研究所 所長)



この記事についてのご意見・ご感想を21世紀教育研究所へお寄せ下さい。教育改革国民会議のホームページがあります。ぜひ一度ご覧ください。

「教育改革国民会議」ホームページ

<http://www.kantei.go.jp/jp/kyouiku/index.html>

スタディノートの上手な使い方（前編）

余田 義彦



これから、スタディノートを使っていく上でこういうのを知っていただきたいと思います。細かいテクニク的な話じゃなく基本的な考え方のお話です。「こういうふうにしたらいいですよ」という話はいくつもあるのですが、特に最近気になっていることを10個あげました。

まず1つは、いろいろなところでスタディノートの評価を聞きますが、スタディノートというのは「まとめに使えるソフトだ」という話をよくお聞きします。スタディノートは「ノート」「電子メール」「掲示板」「データベース」という4つの機能を用意していますが、いろいろ聞いてみると「ノート」しか使わせていないという話を聞きます。ノートを使って、まとめて、プレゼンする。そうすると、パワーポイントとどうちがうんだ、ワープロとどうちがうんだ、あるいは、お絵かきソフトとどうちがうんだという話になってきます。ですが、スタディノートの特徴というのは、ネットワークの機能を利用して他のソフトではできないようなことをやろうというのが基本的な考えです。まとめたり考えたりしたあとは、他の人に見てもらって、やりとりをし、意見をもらう。そういう活動をぜひ入れてください。そうすることで、表現やその背後にある思考がより深い中身のあるものになっていきます。ぜひ、電子メール、掲示板、データベースの機能も使って行って下さい。

2つ目ですが、いちばん最初にスタディノートが学校に入ったとき、子供たちに使い方を教えなければ、そしてそのために先生も勉強しなければ、という話になると思いますが、そのときに特に注意して欲しいことがあります。それは「単なる操作練習はやめたほうがいい」ということです。具体的に言いますと「なんか適当に描いてごらん」「じゃ今度はボタンをつけてみよう」「じゃ、次の画面次の画面・・・」などなど。適

当に中身の無いことを書かせると、子供たちはスタディノートを勉強とは全然関係のないお遊びに使うソフトだ、その程度の価値しかないソフトだと理解するようになってしまいます。そして、周囲の先生方の理解も同じようなものになってしまいます。

どうやったらいいかということですが、難しいことをやらせる必要はないんです。最初から意味のあることをやりましょう。その一つの例として、全員で図書紹介のデータベースを作ろうなんていうのは、すごく意味のあることだと思います。学年は関係なくできますから、4年生は4年生なりに、6年生は6年生なりに、2年生は2年生なりにやればいわけですね。みんなでそういった意味のあることをやって「これがみんなの作品だ」というものを作り上げると、あとあとどんどん次の実践に繋がっていきます。繰り返しますが、難しいことをやる必要はないんですよ。ですからジャンプボタンなんて付ける必要はありません。「やってよかったなあ」というようなものを、ちょっとしたものでいいですからやってみてください。

それから先生方も子供達も、細かいいろいろなことを最初から覚える必要はありません。先生方もワープロをお使いになると思いますが、ワープロのマニュアルを全部読破してからやってるわけではありませんよね。例えば、指導案を明日までに書き上げなければならぬ、というときとか、差し迫った目的というか、やらなくちゃいけないときがあって、とりあえず知ってる知識でやっていきますよね。センタリングとか、フォントを変えとか、ちょっとした罫線機能とかを使って皆さんやっておられると思います。それが普通なんです。スタディノートも画面はシンプルですが、機能はいっぱいあります。もっとやりたい人のために、実は隠してあります。でも全部知る必要はないです。物足りなくなったらステップアップしていけばいい、それだけのことです。

3つ目は「題名」の話です。スタディノートでは『それぞれの子供に工夫させて個性的な題名をつけさせる』ということが非常に大切です。こういったことは、これまでの小学校の作文指導などで、あまり重視されなかったのではと思います。遠足について何か書くのであったら、皆ほとんど同じような題名で本文のほうばかり一生懸命指導されていたんじゃないかと思えます。

世の中いっぱい情報が出てきますね、例えば新聞。端から全部読むのではなく、見出しだけ見て、自分に価値のある情報を探してますよね。見出しが悪いと

① 単なるお絵かきソフトで終わらせていませんか？

ネットワークでできること。

- ・情報の公開
- ・情報の共有
- ・情報の関連づけ

わかってもらいたい
教えてあげたいという
気持ちが表現を豊かな
ものに変える

せっかく書いた本文が読んでももらえないわけです。個人から発信する情報についても同じことが言えると思います。掲示板に「遠足の思い出」「遠足の思い出」「遠足の思い出」とずっと同じ題名があったら、中身はみんなちがっていてもどれを読んだらいいのかわかりませんよね。結局、上から読むとか、自分の友達のをちょっと読むとかになってしまいます。

どうしたらいいのか。新聞の見出しをつけさせるように「内容を要約させる」ということをちょっと考えさせて下さい。「何が一番言いたいのか?」ということですね。例をあげますと、理科の実験で「題名」「実験結果」と書くよりも「リトマス紙がどうなった」とか、そういったのいいと思いますね。「川の水は酸性だった」とか、そういう結論めいたものいいと思います。メーリングリストでもある話なんです、「突然ですが助けて下さい」とか「教えて下さい」とか、題名でよく出てきます。それじゃ中身を見ないことにはなかなかわからない。中身を見なくても「困った。てんびんが釣り合いません」なんて書いてあったら、じゃあ僕うまくいったから教えてあげよう、なんてね。もうちょっと詳しい情報を見ようということになります。子供どうしが、大人と子供もそうですけど、上手にやりとりしようとするには、この題名というのが非常に重要になります。「意見」という題名よりも「山田さんの意見に賛成です」とか、そういうほうがいいですね。

「題名のつけかた」よくない例とよい例

実験結果 リトマス紙は赤くなった。
 突然ですが助けてください
 困った。てんびんが釣り合いません。
 だれか教えてください
 江戸時代の農民について教えて
 感想です 本当にそうなのですか?
 意見 山田さんの意見に賛成です。

4つ目。「ノートのまとめ方」についてですが、特にこの中で大切なのは『文字数はページあたり数行を目安にさせる』ということです。スタディノートは、普通の小さな字で書きますと、一画面で1000字入ります。原稿用紙2枚半。それだけびっしり書いてあると読むのが大変です。読むのが大変ということは、誰も読んでくれないということです。だいたい大きな字で数行程度書くと楽に読めますね。

それからもう一つは、これは学生から言われて「ああそうだな」と思ったことですが、とにかく大切なことは始めに書いた方がいいです。一生懸命書けば書くほどダラダラと書いてしまいますが、読むほうはそんなに読んでくれません。途中で読むのをやめてしまうこともあります。ですから、最初に「私は」についてこう思います」とか、「実験の結果はどうでした」とか、「私

はこう考えてます」とか書いておいて「なぜならば～」という展開ですよ。コンピュータ教育に限らなくても、最近そういう指導が出てきていると思います。自分の考えを書いておいて、それを裏付ける考えや事実をドンと書く。起承転結で重要なことが最後にポロッと出てくるというのは、これからはあまり上手な文章の書き方とは言えないかもしれません。

それから5点目ですが、「デジタルカメラの使い方」というのに注意して下さい。今、簡単に撮れますね。デジタルカメラで写真を撮る、写真をコンピュータに入れる、ということをしごく難しいことのように考えがちですが、実はやってみると簡単なんです。ところが、簡単になればなるほど、みんなきれいな写真をどんどん撮って画面を飾りたくなるわけですね。それで、文字がきれいに書いてあって見た目もきれいになっている・・・という。しかし、写真を通して自分が何を伝えたいのか、自分は何を観察したのか、そういう大事なことが抜け落ちたのでは、結局コンピュータを使っていることの良さというのが出てきません。それならば、ノートにしっかりスケッチさせておけばよかったじゃないか、ということになります。

ノートにスケッチしたものをデジタルカメラで撮っても構わないですよ。現物をデジタルカメラで撮る必要は必ずしもないんです。それから、コンピュータを使いますと、必ずキーボードで文字を入力しなきゃいけないとか、マウスで絵を描かなくちゃいけないとか思ってる人がいますが、決してそんなことはなく、手で描いたものをデジタルカメラでカシャッと撮っても構わないわけです。むしろそのほうがコンピュータの台数が少ないときには便利かもしれません。何が何でもキーボードとか、何が何でもマウスとか、何が何でもデジカメ、と考えるほうがいいと思います。デジタルカメラで写真を撮った場合は、「その写真のここが問題なんだ」とで囲んだり、「ここを見てください」と矢印で示したり、「こんなに大きさがちがうんだよ」とと比較したり、そういったことが大切です。

それから、写真について文章できちっと説明させることが大切です。説明なしでただ写真があるのではなくてきちっと説明させる。文章で説明しようとするれば観察が深まります。学習が深まるのです。

子供にコンピュータの画面をきれいに飾らせるのではなくて、あくまでも、それを通して学習を深めさせるということが目的なのです。(次号へつづく)

(筑波女子大学助教授)

平成12年8月7、8日におこなわれた筑波女子大学ワークショップ「スタディノートを中心としたインターネット/校内ネット利用の授業展開」の中での、余田義彦先生の講演「スタディノートの上手な使い方」を一部紙面向きに編集して掲載させていただきました。

夏休みコンピュータ活用教育研修会(松本・塩尻)の取り組みから ～ワークショップ『塩尻グルメマップ』～

松本市教育文化センター 太田 宏

(1) はじめに

松本市と塩尻市でスタディノートを中心とした地域研修会を夏休みに実施するようになって今年で3年目になります。今年の研修会を計画するにあたりスタッフが考えたのが『ワークショップ『塩尻グルメマップ』』と「インターネット掲示板を利用した帯広の研修会場との交流」でした。どちらも初めての試みでしたが、参加された先生方の評判も良かったことから、スタディノートの研修会を計画する時の参考にして頂けたらと思い投稿させていただきました。なお、紙面の関係で今回は、「塩尻グルメマップ」について報告させていただきます。

(2) 研修の概要

夏休みが終わったらスタディノートを使った授業実践を参加された先生にぜひ始めてもらいたいということで考えたのが『ワークショップ『塩尻グルメマップ』』です。活動は、大きく二つの段階に分かれています。第1段階は、グループ毎に足を使って集めた情報に付加価値を付け、それを互いに分担してネットワーク上で協調しながらまとめ、発信することです。第2段階は、その情報を一カ所に集めて共有し、実際に活用してみることです。この過程を実際に先生方が体験することで、プロジェクト型の授業のイメージをつかんでもらおうと考えたのです。以下、大まかな流れをまとめておきます。

【1日目】

- 「塩尻グルメマップ」のねらいと概要説明
- グループの確認、簡単な自己紹介と計画
- グループ毎に調査活動を開始
- (昼食を含む約2時間)
- 調査項目を元に、グループ内で分担してノートを作成
- 作成したノートをネットワークを利用して修正
- 各自が仕上げたノートをグループ毎まとめ完成

【2日目】

- データベース「塩尻グルメマップ」に登録
- 「塩尻グルメマップ」を閲覧し、昼食の計画を立てる
- 調べた情報をもとに昼食をとる
- 昼食の感想を子情報として「塩尻グルメ

マップ」に登録

活動を振り返り、プロジェクト型の学習を子どもとやる場合に参考になった点や問題点・改善点などを各自がまとめ、「研修を終えて」というデータベースに登録。

それから、スタッフが準備したものは、活動のねらいと手順を書いた資料作成
調査活動に必要な食堂の場所を入れた地図を用意
サンプルのデータと目次に当たるページの作成

(3) スタディノートのコラボレーション機能を 活かす課題

参加された先生方の意見や感想をもとに「グルメマップ作り」という課題の良い点をまとめてみると次のようになります。

やることに意味があり、目的意識や相手意識を持って取り組むことができる課題

知らない場所で研修する場合に、昼食の場所は誰にも必要な情報です。つまり、やることに意味があるわけです。また、他の人に行ってみたいと思わせるようにするために、どんな取材をして、どのようにまとめるかという見通しが立てやすい課題です。さらに、相手を意識するので、調査やまとめ方の質も高くなるというわけです。

発信した情報に反応が返ってくる楽しさや期待感を味わうことができる課題

「自分が発信したものに反応が返ってくる・・・これは実際に体験してみると、とても楽しくまた恐ろし



データベース「塩尻グルメマップ」に親情報を登録

く、ドキドキするものです。このことが今までの学習ではなかなかできなかったことであり、自ら学び、修正していく学習を可能にし、質の高い授業に改善していくことができるものだと思います。」というような感想を書かれた先生が大勢いました。

創ったデータベースがすぐに役立つ情報となるような課題

「今日のカレーは美味しかった。複雑なメニューもあらかじめ知っていたので、注文するものが決まっていた。お店の人が驚くほど人が殺到してしまったのは、まさに情報の効果を見るようでした。」という受講された先生の感想からもそのことが伺えます。

一人一人が活躍できる場のある課題

「協力できる仲間がいるという意識から、個々の力を発揮できた。」グループで企画制作することでアットホームな雰囲気での研修できた。」という感想がありました。蛇足ですが、参加された先生同士で操作を教え合う

姿がよく見られ、スタッフはあまり出番がなかったように思います。

表現する楽しさ、グループでまとめ上げる喜びを味わえる課題

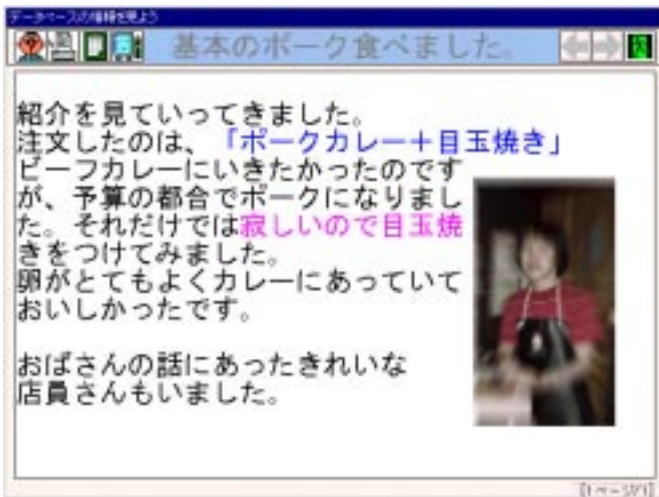
研修会でも、こうした成就感を味わえる活動を仕組むことが大切だと思いました。それが、授業で使ってみよう、自分もやってみようという意欲につながって行くからです。

(4)最後に

今回のワークショップを通して感じたことが二つあります。ひとつは、「子ども達にとってやる必要のあるテーマが座れば活動は自然に動き出す」、つまり課題の決めだしがポイントだよく言われますが、先生方の研修会でも、課題は大事だということです。そして、子どもたちとテーマを決めるとき、(3)でまとめた課題の良い点と比べてみて、いくつかの項目が当てはまるようなら、その活動はきつとうまくいくのではないかと思っただけです。

また、もう一つは、自分自身が情報を創るということ、人と出会い、人とのコミュニケーションをする必要があるということです。いろいろな人と接する内に、その人にしか語れないような情報に出会うかもしれないということです。インターネットや本からの情報に頼るだけでなく、自分の「足」で集めた情報を基本として考えていくことが大切だと思いました。

今回のワークショップを通して、情報活用能力を育成していく上でのヒントを、参加された先生方からたくさん頂いたように感じています。ありがとうございました。



昼食の感想を子情報として登録

受講された先生方より・・・「研修を終えて」

学ぶ内容を明確にすることが必要ですね

グルメマップ作りを通して大切なことを学びました。

取材はあらかじめはっきりさせる。何を伝えるかを考えた画像が必要。

その人でしか話せないような内容を聞けるようなインタビューを。

活動の中で同じグループのメンバーとどんな打ち合わせをし、どんなまとめをし、個人の課題を持てるか、そうした対話の重要性も学びました。

パソコンは対話の道具

日々の授業をはじめいろいろな活動の中で「対話」が本当に大切だと思いました。スタディノートにしても、その対話をするための道具であることを意識していけるとよいのでしょうか。必要なのは「わかってもらいたい、伝えたい」という強い思いとそれを聞いてくれる相手なのだと思います。これはパソコンでなくても普通の授業でも一緒です。

スタディノートっていいですね！

今回は自分たちで取材活動をしてみて得たことが多かったように思います。子供たちが意欲を持って取材していくことの大切さです。実際にいってみたり、食べてみたり、お店の人と話してみたりする中で、初めて「教えたい」「知りたい」「聞いてみたい」と思うことの多いこと。子供たちのこの思いをしっかりとつかまなくてはと思います。

また「発信」したものに対するリプライの大切さ。自分の発信に対する反応はうれしいものです。そしてその反応を大切にしたいくなるものです。これは、自分自身の思考に深く影響してくることを体験させていただきました。これも、スタディノートという人とのつながりを基本に置いたソフトのおかげなのでしょう。

～ ああ がんばった研修会 2000年 夏! ～

東日本(矢板)・西日本(天理)

コンピュータ教育利用夏期研修会

8月21～22日、東日本はシャープ(株)人材開発センター矢板研修所にて、続く8月24～26日、西日本は同天理研修所にて、全国規模のスタディ夏期研修会がおこなわれました。

東日本では、スタディ初心者を対象に、中山先生講演「これからの教育とコンピュータ」、スタディタイム教材の体験、余田先生によるスタディノートの活用法や実践について実習を交えたお話がありました。



講演される中山先生

西日本では、中山先生の講演、余田先生によるスタディノートの活用、コースウェアの体験などがおこなわれました。二日目はスタディ教材作成組とスタディノート活用組にそれぞれわかれて、三日目の最終日に、スタディライターで作成した教材とスタディノートで作成したホームページやデータベースの発表会がありました。

東日本は2日間、西日本は3日間、じっくりみっちりの研修会でしたが、先生方の「これをモノにして2学期からがんばるぞ!」という大きな意気込みが強く感じられる両研修会でした。参加された先生方、お疲れさまでした。

参加された先生方の声

コンピュータは難しいモノという考えが、今までどこかにあったように思います。今回の研修を受講するにあたり、コンピュータを授業に導入する考え方が変わったように思います。学習内容の指導が終わり、授業時数に余裕があれば通っていたコンピュータ室ではなく、児童の実態に合わせ、学習内容の理解のために通うコンピュータ室にしたいなあと思います。(天理研)

スタディノートの情報交換(対話)により、時間や場所を共有しなくても、相手に、情報、考え、意見などを伝えたり交換できる機能は、今の子供たちにとって、たいへん活用できるものであり、価値のあるものだと感じました。(天理研)

教材作りを体験してみて、「こんなふうにして教材が開発されていくんだ」ということや、考え方の転換、目標分析と行動目標など、自分の授業でつまづいている

生徒への手だてや展開などを考え、たくさん学ばせていただきました。中山先生のお話からも、何のための教育かを改めて考えさせられ、余田先生のお話も、基本的な考えがよくわかり、なるほど、と納得しました。(天理研)

今回の研修ではじめてスタディノートを体験しました。第一の感想は「シンプルで無駄な機能がない!」ということです。今後ネットワーク化が進み、ノートがわりにパソコンがどんどん普及すると思いますが、子供の「すぐ書きたい」「すぐ送りたい」「すぐ見たい」という欲求を満たしてあげるためには「簡単な操作」が重要なポイントだと思いました。(矢板研)



目からウロコ!!な研修会アイデア 来年の研修会にいかかですか?

東海市立加木屋小学校 大木先生 加木屋南小学校 林先生

研修会で**ゴム風船**をつかいました。とても雰囲気や和らぎ、参加者の研修目的が明確になりました。風船を使うことで、なかなか自分の考えを出せなかった先生も「これはしゃべりやすい」とおっしゃっていました。スタッフにとっても、大変勉強になりました。

- 1 受付でゴム風船と細い針金を渡す。
- 2 風船をふくらませてもらい参加目的などをマジックで書いてもらう。
- 3 4人で1グループをつくり、風船をみせながら自己紹介や実践のようす、研修会参加の個人目標を語り合う。
- 4 ひととおり済んだら4人の風船を束ねて、他のグループと同様のことをする。

- 5 10分程度で終了し全員の風船を会場の目立つ場所にくくりつける。BGMを流して雰囲気を盛り上げる。

- そのほかのアイデア -

100円出資いただき、ペットボトルと紙コップをスタッフが購入に走る。休憩中自由に飲んでもらう。

(お茶の準備の手間がはげ、好みの飲み物が飲める)

研修会の記録VTRを撮り、会の最後に振り返りとして5分程度上映しました。(現場音はカット。BGMを流す)1、2秒のカット編集で簡単に撮影。その日の研修を振り返り、内容を確かめ合うことができました。BGMを流して雰囲気を盛り上げる。





スタディノートメーリングリストから
少ない台数でのスタディノートの活用

本校はPCの環境が未整備といってよいほど台数が少なく、区内の他校はほとんどスタンドアロンです。この夏、自力でやっとネットワークを構築しました。今、6台程度のPCでいかにスタディノートを効果的に活用するかが悩みです。少ない台数でも、スタディノートを効果的に活用する授業方法はないのでしょうか。
(葛飾区立川端小学校 高橋先生より)

グループで課題解決をする場合に適していると思います。例えば、社会科や総合的な学習の時間にそれぞれのグループで課題を持ち解決していく場合に、グループのある児童はスタディノートで調べたことをまとめる。ある児童は調査活動に行く。あるいは、模造紙や画用紙でまとめるという役割を分担されてはいかがでしょうか？

または、全員まとめる活動をするが、全員が同じメディア(スタディノート)でなく、ある児童はスタディノートでまとめ、ある児童は模造紙でまとめる。(表現する道具を選択)または、スタディノートを使って紙芝居風にまとめたり、あるグループはコンピュータを使わず劇風にまとめる。(表現手段を選択)

(柏原町立崇広小学校 堀先生より)

まず本校の状況を話しておきますと、昔のFMTOWNSが20台、WINDOWSは1台です。この状況の中でスタディノートを使わせています。クラスの人数が33人ですので、もちろん1人に1台は無理です。なので今は、順番を決めて活動をしています。順番を待っているグループは画用紙や模造紙等を使ってまとめたり構想を練ったりしています。そうすればこの状況でも、3~4

人に1台ぐらいにはできません。そして、少しずつ作った作品をもちより最後に1つの作品に仕上げたりしています。

残念ながら学校内LANでがががスタディノートを使うというわけにはいきません。でも、こんな状況でも子どもはいきいきと活動しています。校内LANで活動できない分、インターネット掲示板を活用して他校との交流をしています。

(鳥取市立末恒小学校 谷口先生より)

余田先生からアドバイス

まず入力工夫ですが、何から何までキーボードとマウスで入力させようなどと考えなければよいのです。ノートやスケッチブックにまとめ、出来た子どものものからデジカメでコンピュータに入力していくようにするのも一つの方法です。

次に情報表示の工夫ですが、つくば市の並木小学校などは作成したノートをどんどんプリントアウトし、それを廊下に掲示してコンピュータの画面をのぞき込まなくても、その情報をいつでも誰でも得ることが出来るようにしています。

最後に利用形態ですが、一斉に利用させることだけを考えていると行き詰まってしまう。情報教育やメディア教育のような大きな枠組みで年間の授業計画を立て、コンピュータ(スタディノート)を色々なメディアの一つとして位置づける。そして、色々なメディアをグループで順に活用させていく。このようにすれば、コンピュータを活用する順番がまわってきたグループだけが一人一台環境でスタディノートを利用することができるようになります。子どもたちはコンピュータに関心をもつでしょうが、それ以外のメディアの利用もしっかりと体験させたいものです。



お知らせ

スタディシリーズに関するビデオを販売しています。ご希望の方はお早めに21世紀教育研究所までご連絡ください。在庫わずか!

スタディノート実践事例集

「総合的な学習」としての環境学習

- つくば市立並木小学校花室川プロジェクト -
¥2,000(税・送料込)

これからの教育とコンピュータ(全4巻)

「これからの教育のあり方」

「コンピュータは役に立つのか」

「授業に活かすマルチメディア」

「授業に活かすネットワーク」

一価 ¥12,000 特別価格 ¥8,000
(税・送料込)



ECONews 郵送会員登録
年間随時 受付中

ECONewsは、21世紀教育研究所のホームページをご覧になるか、または郵送で受け取ることができます。郵送会員には、年会費1000円で、年6回発行のECONewsとECONews教材、スタディシリーズ試用版CDなどを無償で配付いたします。くわしくは、下記の「21世紀教育研究所」までご連絡ください。

注意 ECONews教材CD-ROMは、希望者のみの配布となっています。申込用紙に「教材CD-ROM希望」とお書きになるか、その旨を当研究所までお伝え下さい。

21世紀教育研究所

〒305-0045 茨城県つくば市梅園2-33-6

Tel ☎0298-50-3321 ☎ ☐ ☐ Fax ☐0298-50-3330

e-mail econews@green.ocn.ne.jp

URL <http://www.eri21-unet.ocn.ne.jp/>

“秋”といえば、食欲の秋、運動の秋、読書の秋。そして、研究授業の秋!?

ぜひ、研究授業の成果をECONewsで発表しませんか? 我こそは、という先生、原稿をお待ちしています! 右記までご連絡ください。